

# ケーブル2社 データ放送からヤフー閲覧を実験 ～テレビで放送と通信を楽しむ視聴形態ねらう～



アイ・ねっと  
社長  
石原俊太郎 氏

実験の立案はケーブルテレビ企画会社のアイ・ねっと（石原俊太郎社長、本社＝島根県松江市）。実験コーデインポートはデータ放送システム開発ベンダーのメディアキャスト（杉本孝浩社長、本社＝東京都渋谷区）。コンテンツ提供はヤフージャパンの協力で、

## 山陰ケーブルビジョン スターキヤットが実験

ケーブルデータ放送のポータル画面でインターネットコンテンツを閲覧する実験が、今年1月末から5月末まで行なわれた。現在の放送と通信の融合サービスは、映像コンテンツを通信回線で伝送するものに限られている。今回の実験は融合を一步進め、インターネット上の各種データと機能をテレビ画面で利用する視聴形態の実現性を検証する初の試みだ。

ケーブルテレビの視聴サービスメニューにインターネットコンテンツを加えるだけでなく、新たな「地域密着双方向ビジネス」の起爆剤となる可能性も垣間見え、今後のサービス開発動向が注目される。

## 地域のテレビポータルを 獲得し メディア競争に勝ち狙い

山陰ケーブルビジョンとスターキヤットが実験を行なった。きっかけは、石原氏が「インターネットでインパクトのあるコンテンツをデータ放送に流してはどうか」と杉本氏に発案したこと。ヤフージャパンは、ヤフーサービスをさまざまな機器で使う「Yahoo Everywhere」構想の一部にデータ放送があつたので、実験に協力した。

アイ・ねっとの石原氏は、「ケーブルデータ放送をインターネットのポータル（入口）にするのが、そもそもの発想。放送と通信の融合という場合、ギガビットブロードバンドでコンテンツのIP伝送に成功したたぐいの話ばかりだ。これは、通信を使った放送コンテンツの伝送で、放送と通信の融合の一面にすぎない。本当の融合は、放送・通信の両方をテレビで楽しめるものであるはずだが、今までにそのような考え方は皆無だった。今回の実験目的は、この新しい融合サービスの実現性を検



メディアキャスト  
社長  
杉本孝浩 氏

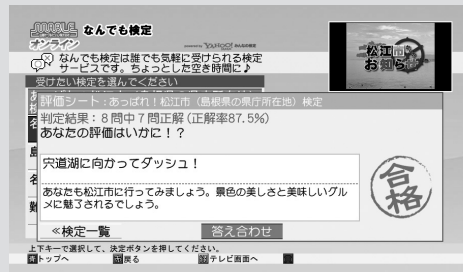
証することにあり」と説明する。ヤフーが提供する各種インターネット用のコンテンツを、ケーブルデータ放送で各家庭に配信する実証実験である。メディアキャストの杉本氏は、今回の実験の第1の狙いを次のように話す。「ケーブルデータ放送は、やはり地域情報がメインだが、さらに視聴者を魅了するためにヤフーをはじめとする通信コンテンツに目をつけてみた。インターネット上には今回のヤフーに限らず魅力的で便利なコンテンツが多数ある。それらをケーブルデータ放送でお茶の間に届けることにより、ケーブルデータ放送が通信コンテンツの入口となり、今までの放送だけでなく、通信も含めた地域テレビポータルを獲得することになる。いわゆる地域における「情報ラストワンマイル」を得ることになり、今後のケーブル事業戦略に大いに役立つと期待できる」。

## 視聴者は放送から 通信に シームレスに遷移

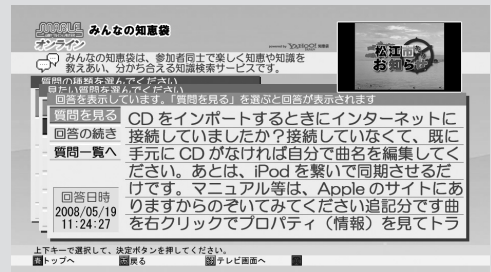
第2に、データ放送はインターネット経由で、双方向サービスができることが最大のメリット。しかし、現状はデジタルテレビにインターネットを接続している視聴者が少なく、データ放送普及の高いハードルになっている。今回の実験は、テレビへのインターネット接続を促進するキャンペーンも兼ねている。テレビがインターネット接続されると、ビジネスがまったく変わる。接続されなければ「見るテレビ」にすぎないが、接続されれば「使うテレビ」の新しいサービスができ、これまでにない双方向ビジネスが生まれるからだ。

実験システムでは、BMLプログラムによりSTBの通信接続状態を自動検知し、つながっていると「お楽しみコーナー powered by YAHOO」（提供元はヤフー）のボタンが表示される。そのボタンを押すと「これから先は通信です」と利用に当たったの注意がな

され、承諾が求められる。ここで重要なのが、放送ではコンテンツ責任は配信側にあるが、通信では視聴者側が利用の責任を負うという基本的な違いがあることだ。このため通信に進む場合、承諾を意味する「はい」を押し、「決定」ボタンを押してからヤフーの



なんでも検定 判定画面



知恵袋 質問画面

コンテツに入る。今回の実験コンテツは、1行で最新ニュースが分かる「最新トピックス」、その時の社会のトレンドを検索によって知ることが出来る「みんなのランキング」、雑学をテレビで学べる「みんなの知恵袋」、4月から「なんでも検定」を用意した。「なんでも検定」は、誰でも気軽に受けられる検定サービスで、地域と全国の人とコミュニケーションができる。山陰ケーブルビジョンの「あっぱれ、松江検定」では正答が8問を超えると「合格」。ゲーム性と地域性を兼ね備えたコンテツだ。スターキヤツトは、合格すると、携帯のQRコードが出て、携帯サイトへアクセスすると、懸賞がもらえる実験も行なった。ヤフーのコンテツはインターネット上で使ってもらうためにAPI (Application Programmable Interface) が公開されている。しかしデータ放送用には適切でない部分が多く、メディアキャストの中間サーバーで、データ放送に変換し、視聴者のSTBと通信を行なうシステム構成である。

コンテツに入る。今回の実験コンテツは、1行で最新ニュースが分かる「最新トピックス」、その時の社会のトレンドを検索によって知ることが出来る「みんなのランキング」、雑学をテレビで学べる「みんなの知恵袋」、4月から「なんでも検定」を用意した。「なんでも検定」は、誰でも気軽に受けられる検定サービスで、地域と全国の人とコミュニケーションができる。山陰ケーブルビジョンの「あっぱれ、松江検定」では正答が8問を超えると「合格」。ゲーム性と地域性を兼ね備えたコンテツだ。スターキヤツトは、合格すると、携帯のQRコードが出て、携帯サイトへアクセスすると、懸賞がもらえる実験も行なった。ヤフーのコンテツはインターネット上で使ってもらうためにAPI (Application Programmable Interface) が公開されている。しかしデータ放送用には適切でない部分が多く、メディアキャストの中間サーバーで、データ放送に変換し、視聴者のSTBと通信を行なうシステム構成である。

今回の実験コンテツは、1行で最新ニュースが分かる「最新トピックス」、その時の社会のトレンドを検索によって知ることが出来る「みんなのランキング」、雑学をテレビで学べる「みんなの知恵袋」、4月から「なんでも検定」を用意した。「なんでも検定」は、誰でも気軽に受けられる検定サービスで、地域と全国の人とコミュニケーションができる。山陰ケーブルビジョンの「あっぱれ、松江検定」では正答が8問を超えると「合格」。ゲーム性と地域性を兼ね備えたコンテツだ。スターキヤツトは、合格すると、携帯のQRコードが出て、携帯サイトへアクセスすると、懸賞がもらえる実験も行なった。ヤフーのコンテツはインターネット上で使ってもらうためにAPI (Application Programmable Interface) が公開されている。しかしデータ放送用には適切でない部分が多く、メディアキャストの中間サーバーで、データ放送に変換し、視聴者のSTBと通信を行なうシステム構成である。



山陰ケーブルビジョン 常務取締役 錦織修二 氏

### 個人認証と結合 新サービスモデルに

実験を行なった山陰ケーブルビジョンの錦織修二常務取締役によると、1年前の08年3月25日に地デジとデータ放送も開始した。その前は自主制作番組を流すチャンネルと情報チャンネルの2つを提供していた。アナログの情報チャンネルは、その時間が来ないと見られない。それに対してデータ放送はいつでも見られる特性があり、情報もたくさん出せる。ただ、画像が混ざると急に応答が遅くなる。錦織氏は「その中で、通信が使えろといった話が今回あった。このレスポンス問題は通信が入ってくると、解決できないのではないかと。それで、通信と放送の融合と本当にいわゆるサービスになりうるのではないかと期待が大きい。問題は、松江市ではまだデジタルテレビにプロードバンド環境が整った形でテレビを

個人認証と結合  
新サービスモデルに  
実験を行なった山陰ケーブルビジョンの錦織修二常務取締役によると、1年前の08年3月25日に地デジとデータ放送も開始した。その前は自主制作番組を流すチャンネルと情報チャンネルの2つを提供していた。アナログの情報チャンネルは、その時間が来ないと見られない。それに対してデータ放送はいつでも見られる特性があり、情報もたくさん出せる。ただ、画像が混ざると急に応答が遅くなる。錦織氏は「その中で、通信が使えろといった話が今回あった。このレスポンス問題は通信が入ってくると、解決できないのではないかと。それで、通信と放送の融合と本当にいわゆるサービスになりうるのではないかと期待が大きい。問題は、松江市ではまだデジタルテレビにプロードバンド環境が整った形でテレビを

個人認証と結合  
新サービスモデルに  
実験を行なった山陰ケーブルビジョンの錦織修二常務取締役によると、1年前の08年3月25日に地デジとデータ放送も開始した。その前は自主制作番組を流すチャンネルと情報チャンネルの2つを提供していた。アナログの情報チャンネルは、その時間が来ないと見られない。それに対してデータ放送はいつでも見られる特性があり、情報もたくさん出せる。ただ、画像が混ざると急に応答が遅くなる。錦織氏は「その中で、通信が使えろといった話が今回あった。このレスポンス問題は通信が入ってくると、解決できないのではないかと。それで、通信と放送の融合と本当にいわゆるサービスになりうるのではないかと期待が大きい。問題は、松江市ではまだデジタルテレビにプロードバンド環境が整った形でテレビを

「放送と通信で異なる「倫理」や「文化」」  
メディアキャストの杉本氏は「放送と通信の融合は、技術面で論じられるケースが多かったが、両者は倫理面や文化面、そして視聴者が受ける感覚などがまったく違う。今回の実験は、倫理面、文化面で許容できる限度を調べた日本初の実験でもある」と指摘、明らかにした諸問題も含めて実験成果をケーブルテレビショー2009のブースで展示する予定だ。  
ただし、今回の実験は事業化に直結せず、事業化は「次の次を狙う」(石原氏) スタンスのようだ。  
今回の実験と並行して、ヤフージャパンは、インターネットテレビ向けのコンテツ配信を4月に開始した。ケーブル業界においても、テレビメーカーのテレビポータル、アクトビラ、そしてNHKオンデマンドなどの動向を見極め、今後のメディア競争に勝ち抜くための戦略を練り上げる必要があると見られる。

個人認証と結合  
新サービスモデルに  
実験を行なった山陰ケーブルビジョンの錦織修二常務取締役によると、1年前の08年3月25日に地デジとデータ放送も開始した。その前は自主制作番組を流すチャンネルと情報チャンネルの2つを提供していた。アナログの情報チャンネルは、その時間が来ないと見られない。それに対してデータ放送はいつでも見られる特性があり、情報もたくさん出せる。ただ、画像が混ざると急に応答が遅くなる。錦織氏は「その中で、通信が使えろといった話が今回あった。このレスポンス問題は通信が入ってくると、解決できないのではないかと。それで、通信と放送の融合と本当にいわゆるサービスになりうるのではないかと期待が大きい。問題は、松江市ではまだデジタルテレビにプロードバンド環境が整った形でテレビを

個人認証と結合  
新サービスモデルに  
実験を行なった山陰ケーブルビジョンの錦織修二常務取締役によると、1年前の08年3月25日に地デジとデータ放送も開始した。その前は自主制作番組を流すチャンネルと情報チャンネルの2つを提供していた。アナログの情報チャンネルは、その時間が来ないと見られない。それに対してデータ放送はいつでも見られる特性があり、情報もたくさん出せる。ただ、画像が混ざると急に応答が遅くなる。錦織氏は「その中で、通信が使えろといった話が今回あった。このレスポンス問題は通信が入ってくると、解決できないのではないかと。それで、通信と放送の融合と本当にいわゆるサービスになりうるのではないかと期待が大きい。問題は、松江市ではまだデジタルテレビにプロードバンド環境が整った形でテレビを



山陰ケーブルビジョン